opusdei.org

「私はあなたたちを 友と呼ぶ」 (3) ~ 相互の愛~

周囲の人々からの愛情を受け 止めることは、自分のの方とは、 神様の場所を作る一つの方と 神様です。私たちの友情の一下 でつがキリストの となけます。 機会となります。

2021/02/12

兵士たちがキリストを捕らえた時、 弟子たちは恐れをなして逃げてしま

いました。彼らは怯え、何もでき ず、自分たちが全信頼を寄せていた お方の失敗とも見える姿を目の当た りにしたくなかったのです。足を鎖 で繋がれ、夜の冷気に晒されたイエ スは、明らかに不正な判決を聞きま した。主の言葉は歪められ、偽証に 使われ、その刑罰はあまりにも重い ものでした。キリストの傷ついた御 体を見て、人々は皆死刑を要求しま した。曲がりくねった道、十字架の 重さ、釘付けにする金槌の音を聞こ うと集まった敵意に満ちた群 衆……、そして最後には私たちの主 の御体は高く掲げられました。その 十字架上の孤独の中で、イエスは深 い憐れみを持って、人となられた神 を受け入れようとしなかった人々を ご覧になりました。「よく見よ、こ れほどの痛みがあっただろうか | (哀歌1,12)。キリストのご受難に おける苦しみは肉体的にも精神的に も「この世の中で起こり得る最大の

ものでした」[1]。そして彼はそのい

かなる苦しみからも免れないことを ご存知でした。注目すべきことは、 父である神がご自分の子から、あの 苦しみの時ですら友からの慰めを取 り去ろうとはされなかったことで す。イエスは、十字架の下で弟子の ヨハネがあのいつもの目、先生と共 に過ごした喜びの時を何度も見てき た目で彼を見つめている様子をご覧 になっていました。ヨハネは先生の 傍で一致して過ごした多くの旅の時 と同じように、友である主の傍にい ることを望んだのでした。彼は聖母 を探しに行き連れてきました。最後 の晩餐で主に寄りかかり、主の鼓動 さえ聞いた弟子は、イエスに忠実な 友情を示し続けました。「そこに留 まる | という極単純な行為を通し て。カルワリオの丘で、神様の人類 に対する愛が最高の形で示されよう としているその時、主はその愛の返 答として、人間の愛の印も受け取ら れていたのでした。恐らく主の心の 中ではその数時間前にご自分が言わ

れた言葉が響いていたことでしょう。「あなたたちを友と呼ぶ」(ヨハネ15,15)という言葉を。

互いに示しあう愛情

福音書の多くのページでイエスの友 達について語られています。大抵の 場合、友情が深められていった経緯 の詳細は分かりませんが、そこに描 かれた主に対する人々の反応が、正 真正銘の相互の愛があったことを明 らかに示しています。そうした箇所 を読むと、主がご自分の友達と共に 過ごすことを楽しまれていたこと、 そして彼の人としての心が、愛し、 愛される人間同志の現実を大切にさ れていたことに気づきます。「イエ ス・キリストの福音が明らかにして いるように、神は私たちなしでいる ことはできません。神は人間と無関 係でおられる神では決してないので す。神は私たちなしではいられな い、これは大いなる神秘です」[2]。

例えば、ベタニアの友の家ではいつ も主は歓迎と愛情を受けておられま した。ラザロの死の際、彼の二人の 姉妹は完全な信頼を持って主のお傍 に近づきました。妹のマリアが語気 を強めて「主よ、もしあなたがここ においでになったなら、私の兄弟は 死ななかったでしょう」と言ったこ とからもイエスがどれほどあの家族 と親しかったかが察せられます。そ してその彼らの友である主は姉妹の 悲しみに心を打たれて、涙を流され たのです(ヨハネ11,35参照)。あの 家は、イエス様が安心してくつろぐ ことができ、ご自分の心を開いて率 直に語ることができた場所でした。 「ベタニアの家でのラザロとマルタ とマリアの会話は何と素晴らしかっ

このように大勢の人々がイエスを本 当の友達と考えていたように、イエ ス自身も周囲の人々が示す友情に慰 めを見出していました。例えば、金

たことか」「3〕。

持ちの若者が神への愛を受け入れ ず、自分の心を閉ざしてしまったの を見て、ペトロは言います。「御覧 の通り、私たちはすべてを捨ててあ なたに従いました。私たちは何を受 け取るのでしょうか」(マタイ 19,27)。主に従いたいという熱意を いつもためらうことなくはっきりと 口に出していたペトロ。そのペトロ が思わず言ったこの言葉に、イエス は慰めと支えを感じ取ったことで しょう。主に対するペトロの愛情は 大変大きかったので、彼は友である 主をいつもしっかりと守ろうとして いましたし、主が、その深い信頼故 に強くペトロを戒めた時は(マタイ 16,21-23; ヨハネ13,9参照)、自分 の生き方を改めようとしていまし た。

イエスはペトロのたくましさに支えられていただけではなく、またヨハネの恐れを知らない優しさに安らぎを見出しておられました。主は青年

だったあの弟子と、幾度も幾度も語 り合ったことでしょう。最後の晩餐 では、友である主の心が分かってい たので、ヨハネは信頼をもって主の 胸に頭をもたれかけていました。そ して主はその彼の愛情のこもったし ぐさをためらうことなく喜んで受け 止めておられたことを、私たちは聖 書を読んでよく知っています。イエ スがゲッセマネの園でもだえ苦しん でおられた時には目を覚ましている ことができず、また主が捕らえられ た時は逃げてしまったヨハネです が、その後、悔い改めて主の元に戻 りました。そうしてヨハネは「赦 し」によって友情が更に深まること を経験したのでした。

「私たちは普通、神様のことを私たちの平和の源であり、平和が意味するものとして見ています。それは本当ですが、それだけで全てを言いつくしているわけではありません。例えば、私たちも神様をお慰めし、安

らぎを与えることが『できる』とい うことをあまり考えません| [4]。本 物の友情はいつも双方が与え合うも のです。ですから私たちがどれほど 神様から愛されているかを個人的に 経験すれば、当然その愛情に応えた い、私たちの知性の扉をあけ、私た ちの心を思いきり主に開いて愛情を お返ししたいと考えるはずです。こ うして、私たちは主にできる限りの 慰めと愛をお捧げすることができま す。そしてイエスはペトロやヨハ ネ、或いはベタニアの友達のうちに 見出した愛情を私たちのうちにも見 出すことがおできになることでしょ う。

友情は私たちの視野を広げる

イエスが沢山の友達を持っておられたように、また神様がアダムの子孫を喜びとされたように(箴言8,31「主の創られたこの地上の人々と共に楽を奏し、人の子らと共に楽し

む1)、私たちも、人として全く当 然のこの必要性を感じることは良い 事です。あらゆる時と場所で出会っ た大勢の人たちとのつながりを考え てみましょう。同じ学校に通ってい た、同じ地区に住んでいた、或いは 共通の知り合いがいる、等々。私た ちの人生の中の具体的な状況が、私 たちを友達に出合わせ、友との親し さを育んでいったのです。そうした 友情のきっかけを一つひとつ振り返 るならば、お互いを結び合わせた一 見偶然と思える出来事の連続だった ことに気付くでしょう。そしてこの 偉大な宝を下さった神様、人生にお いて友達の愛情と支えに決して欠け ることがないようにと望まれた神様 に感謝を捧げないわけにはいかなく なるでしょう。

そして神様は私たちが人生で出会ったすべての人々の中から、私たちのより近くにいる人たちを選ばれました。私たちの展望を広げ、私たちに

新しい事を教え、本物の愛とは何か を示すために、神様は私たちの友達 を使われるのです。「友人たちは私 たちが異なる人生の見方を理解でき るように、助けてくれ、私たちの内 的世界を豊かにしてくれます。そし て友情が深い物であれば、自分とは 異なる方法で物事を経験することす ら可能にしてくれます | [5]。イギリ スの作家、C.S.ルイスは多くの親し い友人を持っていましたが、その独 特なユーモアで次のような言葉を残 しています。「友情は、われわれが お互いを見出した識別力と充分な鑑 識力にたいする報酬ではない。友情 は、神が各人にすべてのほかの者の 美点を現わす道具である | [6]。友情 は神様が他の人々の美しさを私たち に示し、この世界を新たなより豊か な方法で見るように私たちを導く手 段なのです。

「私は世の終わりまで常におまえた ちと共にいる」(マタイ28,20)と、

イエスは私たちに言われましたが、 その一つの方法は私たちを愛して下 さる人々を通してです。「つらい時 にそばにいてくれる誠実な友は、主 の愛情と慰め、優しい存在を映しだ すものでもあります。友を持つこと で、心を開くこと、理解すること、 他者を気に掛けること、気楽さと孤 立から抜け出ること、人生を共にす ることを教えられます。だから『誠 実な友は、何ものにも代えがたく、 その素晴らしい値打ちははかりがた い』(シラ6,15)のです」[7]。友情 をこうした視点から考えるならば、 私たちは友人をより深く、より良く 愛し、イエス様の眼差しで見るよう 促されます。そしてその努力には、 人々が私たちの事を友人だと呼ぶに 仟せ、相手の友情を受け止める戦い が伴っていなければなりません。何 故なら互いに愛を示し合うことがな ければ本物の友情はあり得ないので [8]。

互いのための贈物

友情は「無私無欲」を十台にした関 係であり、私たちの身に余るほどの 賜です。ところが、友情がもたらす 慰めを信じることができず懐疑的に なる人たちもいます。神様だけをお 喜ばせするという望みを誤解して友 情はそれほど必要ではないと考えて しまうこともあり得ます。しかし、 キリスト者は神様を愛し、同時に 人々を愛するために、そして周囲の 人々からの愛を受け止めるために心 を一つしか持っていません。イエス の聖心の祝日に聖ホセマリアは説教 の中で次のように強調されました。 「神は、心の代わりに純粋な霊であ る意志をやろうとは言っておられな いことに注目してください。神様は 心を下さいます。キリストの心と同 じように人の心を下さるのです。私 は、神を愛する心と人々を愛する心 との二つを持っているわけではあり ません。両親や友人を愛するその同

じ心でキリストと御父、聖霊、聖母マリアを愛するのです。何度も繰り返し申し上げたいと思います。非常に人間味あふれた人にならねばならぬ、さもなければ、神的になることはできぬと」[9]。

私たちは、この人間関係から得られ るものは何かと考えながら、実益で 友達を選ぶようなことはしません。 私たちは友人をその人だからこそ、 その人自身を愛するのです。「愛徳 がその人間的次元を超自然的に高め るように、真の友情もそれ自体価値 あるものです。それは、社会生活に おいて便益を得るための手段や道具 ではありません | [10]。友情が賜物 であることを知るならば、自分も他 の人からの助けを必要とていること に気付かず、皆を助けることが自分 の務めであるかのように考えてしま う「スーパーヒーロー的優越感」に 陥ることはないでしょう。私たちを 天国に導くのは成し遂げるべき目標

皆、私たちの友人が自分の人生や自分の内面にまで入ってくることを恐れない開かれた単純な心構えが必要です。時には努力が要求されたとしても、友情という賜物に自分自身を開くことで、私たちは必ずより一層幸せになれるのですから。

誰もが友達から学んできた素晴らし い教えの数々をリストアップするこ とができるでしょう。友人一人ひと りと、それぞれに違う絆があること でしょう。そしてその一つひとつが 私たちの心の隅々を新たな光で照ら してくれるのです。友に愛され同伴 されていると知る大きな慰めは、私 たちも友人に対して同じようであり たいという望みと一つになります。 聖ヨハネ・パウロ二世は言われまし た。「友情とは誠実な愛、双方から の愛、相手のために善のみを望む 愛、一致と幸せをもたらす愛のこと です | [11]。人々が自分の事を「友 達| と呼んでくれることは決して私 たちを高慢にさせることではなく、 その贈り物に対する感謝と、友人の 幸せに向かって共に道を歩もうとい う望みとなっていきます。「人の心 を愛に向かわせるのは、愛されてい る側が、自分が相手からその愛に完 全に応えることを望まれていると知 ることです」[12]。

イエス様が私たちを友と呼ばれるからいつもそれはあからのです。「イエスはあるない」「イエスはある。」「人工である。」である。ある。いうである。ないうに、ないが、である。いうに、私たちの方に、

María del Rincón Yohn

- [1] 聖トマス・アクィナス、『神学 大全』、第Ⅲ部、第46問、第6項。
- [2] フランシスコ教皇、一般謁見で の講話、2017年6月7日。
- [3] 聖ホセマリア・エスクリバー、 手紙、1965年10月24日。
- [4] Javier Echevarría, Eucaristía y vida cristiana, Rialp, 2005, p. 203.
- [5] フェルナンド・オカリス、司牧 書簡、2019年11月1日、8番。
- [6] C.S.ルイス『四つの愛』、蛭沼寿雄訳、新教出版社、第3版、2004年、p.126。
- [7] フランシスコ教皇、使徒的勧告 『キリストは生きている』、151 番。
- [8] 聖トマス・アクィナス、『神学 大全』、第 II -2部、第23問、第1項 参照。

[9] 聖ホセマリア・エスクリバー、 『知識の香り』、166。

[10] フェルナンド・オカリス、司牧書簡、2019年11月1日、18番。

[11] 聖ヨハネ・パウロ二世、演説、 1988年2月18日。

[12] 聖ヨハネ・クリゾストモ、 Homilía sobre la segunda Epístola a los Corintios, 14

[13] 聖ホセマリア・エスクリバー、 『道』、422。

Photo by Robert Nickson on Unsplash

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/tomo-to-yobu-3/(2025/12/11)